

わが市わが町

横須賀市



大楠山山頂からの眺望

横須賀市は神奈川県東部、三浦半島の中央にある人口約37万人、面積約100km²の都市です。東京湾の入り口に位置することから、江戸時代には奉行所が置かれるなど国防や交通の重要な拠点とされてきました。明治時代に鎮守府が設置されて以降、軍港都市として栄えてきた歴史があり、現在も海上自衛隊やアメリカ海軍の重要な基地が置かれています。そのため、基地の施設や停泊する護衛艦、軍艦を船上から眺める「軍港めぐり」が人気で、横須賀の主要な観光産業の一つとなっています。

また、旧軍港都市であることから、旧日本軍の遺構も多く残されて

おり、平成28年には日本近代化の躍動を体感できるまちとして、呉市、佐世保市、舞鶴市とともに日本遺産に選定されました。本市では現在、猿島や千代ヶ崎をはじめとした要塞・砲台跡の整備を進めており、市内の各地で旧軍港都市の遺構を見学することができます。

本市は旧軍港の近代遺産以外にも、豊かな自然が観光資源の一つとなっています。横須賀市の大部分は起伏の大きな丘陵地帯や山地帯で形成されていることから山も多く、大楠山や武山といった市内の主要な山ではハイキングを楽しむことができます。特に大楠山は、天候次第で山頂から富士山や伊豆大島などを望む

ことができ、その眺望は小説家の司馬遼太郎が「三浦半島記」にて「山頂からの眺望は、日本国のどの名山よりもすぐれている」と評すほどです。

このように本市は森林も多く、森林面積は市内の30%近くを占めています。森林の大部分は常緑広葉樹や夏緑広葉樹からなる二次林により構成されており、スギ林などの人工林は森林面積のわずか2%程度に過ぎません。現在林業は行われていないものの、森林はかつて里山として利用されてきた経緯があり、開発が進んだ現在でもわずかながら里山の環境が残されています。このわずかな里山環境を保全するため、本市では民間企業やNPO法人などと連携した保全活動を行っています。いまではトウキョウサンショウウオやサシバといった希少種をはじめ、多くの生き物が確認されており、活動の効果が表れてきています。



横須賀の里山に飛来するサシバ

一方で保全活動がなされていない樹林地では荒廃が進んでいることが課題となっていることから、現在課題解決に向けた樹林地のあり方や管理方法を模索しています。今後は荒廃した森林の整備にも尽力していき、防災や健康増進、生物多様性など森林の持つ多面的な機能が活かされた豊かな森林を創り上げていくことを目指します。(横須賀市自然環境・河川課 森塚晶人)



横須賀ヴェルニー公園から護衛艦を臨む